



初日の出 (撮影 神馬 悟 2012年1月1日 七ヶ浜町)

故郷の再生を信じて

2012年の元旦は厳かに明けた。七ヶ浜町で最も被害の大きかった菖蒲田浜には今年一年が佳い年でありますようにと、多くの人々が初日の出を拝みに来ていた。

この浜には震災後、コンテナ、漁船、漂流物が打ち上げられていた。それが全国からのボランティアが暑い夏、一生懸命作業をして、元通りの美しい浜に戻った。本当に頭が下がる。被災3県に災害ボランティアセンターを通して来た人は89万人にのぼる。現在は最も多かった時期に比べ、10分の1にまで減少したという。支援の手はまだ必要だ。今年は震災から復興に向けて、正念場となる。各市町村で復興計画が策定されているが、住民が主人公の町づくりが望まれる。

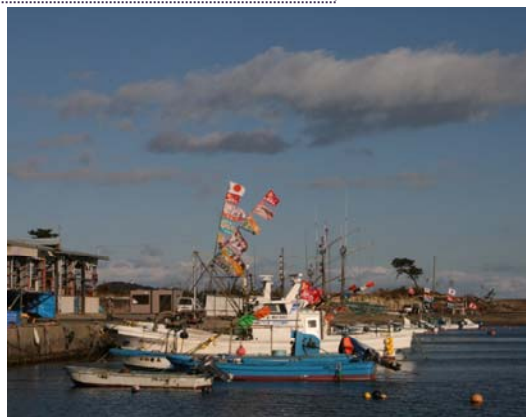


希望の1本松 (七ヶ浜町)

震災で路上生活に入ったひとはいないか

1月7日(土)午後4時から、宮城民医連反貧困PJでは、仙台市福祉プラザで路上生活者の健康相談会と食事会を開催します。今回は東日本大震災で、直接・間接的に仕事を失い、路上生活に入った人はいないかを注視していきます。

宮城県で現在失業給付を受けている人は、2万8千人以上。震災で失業した方は1月中旬に失業給付が切れます。私たちに出来る健康を守る取組みに参加しましょう！



お正月震災を免れた漁船には大漁旗と松が飾られていた。早く大漁で港が活気づきますように！

七ヶ浜の自宅から車で数分の所に(私の)希望の1本松がある。津波で根がむき出しになっているが、踏ん張っている。

初日の出を待つ間、山形からきたという男性が、“思い出の場所”なので10数年元旦には毎年来ていると話してくれた。1木1花、自然はかけがえのないものだと改めて知らされた。(J)